



社会システムを 21 世紀にアップデートせよ

■ 夏野 剛

思えばずいぶん遠くへ来たもんだ。

1995 年にアメリカから帰国した私を待っていたのは IT やネットワークが社会にまったく普及していない日本だった。情報化社会という概念は浸透していたが、携帯電話の黎明期でまだポケベル全盛時代。PC 普及率はきわめて低く、ましてやインターネットなど、大学や研究機関そしてオタク以外は使っていない時代。そこからわずか 20 年で全産業が IT 化し、ネットワークにつながらずに 1 日を過ごすことはあり得ない時代が国民に定着した。96 年にネットベンチャーを立ち上げ、早過ぎて失敗し、今度はケータイネットでリベンジし、世界最先端のモバイルインターネットサービスを立ち上げ、その後数々のネットサービスの経営にかかわっている私にとって、この 20 年は怒濤の、そしてとんでもなくエキサイティングな時間だった。社会は史上あり得ないスピードで進化したと思う。

ところが一方で、日本の GDP はこの 20 年間ほとんど伸びていない。名目値ではほぼゼロ^{☆1}。実質値でも 16%。米国のそれぞれ 130% と 60% と比べると格段に低く、いまや先進国中日本の生産性は最下位となってしまった。

そもそも情報技術は生産性を上げるはずのものではなかったか。実際、米国のみならずドイツ、フランスなど他の国々の生産性は向上している。日本だけがなぜ生産性が向上しないのか。

私たちはもしかしたら大きなミスを犯していたかもしれない。情報技術を技術という枠組

^{☆1} 1996 年と 2016 年の GDP 比較。IMF World Economic Outlook より。

■ 夏野 剛
慶應義塾大学政策・メディア研究科
特別招聘教授

カドカワ、トランスコスモス、セガサミーホールディングス、びあ、グリー、DLE、U-NEXT、日本オラクルなどの取締役を兼任。経産省産業構造審議会臨時委員。スマホの先駆けとなる携帯「iモード」サービスを1999年にドコモより立ち上げ、ビジネスウィーク誌にて世界のeビジネスリーダー25人の一人に選ばれる。現在は、慶應義塾大学で教鞭をとる傍ら、上場企業の実務取締役を兼任、フジテレビ「とくダネ!」などのテレビ番組のコメンテーターも務める。経産省や内閣府では、各種委員会のプレーンとしても活躍する。



みで捉えすぎて、技術の普及に合わせた社会システムの更新を怠ってきたのではないか。ビジネスの現場ではデジタル化によりコンピュータが個人の能力を大きくエンハンスしてくれているのに、20年前と変わらない役職・仕事体系。資料棒読みの長い会議。社会全般でも、ネットの普及を想定していないまま運用され続ける法律、規制。暗記と機械的計算能力を重視した教育体系。

そう、せっかく情報技術は格段に普及し、情報化社会が完全に成立しているのに、その社会を支える仕組みが20年前と変わっていないのだ。政治、経済、経営、教育、法制度、金融、慣習、文化、芸術。すべてのものをリフレッシュすべきだったのに、更新せずに引きずってきてしまった。

では今から大がかりに更新するのはどうか。ここまで何もしてこなかったのだから、ちょっとでも変更すれば大きな改善効果が見込めるはず。そのための勇気をすべてのリーダーが持たなければいけない。今後AIやIoTの普及によりさらに情報化社会が進化する。それに備えていまこそ社会システムの刷新にとりかかろう。何を变えるべきか、何を残すべきか、社会を構成するすべての要素の見直しにとりかかろう。

今さらながら、日本にも進化する情報技術に相応しい社会システム作りに倍速で取り組むときが来た。これまで何もしてこなかったのだから。そして、次の20年はこれまでの20年以上に進化するのだから。

